

# 家庭環境データ 2023

令和5年11月1日  
NPO 法人第3の家族

## 調査目的

若者の家庭環境による価値観の変化や、家庭が居場所だと感じない若者の実態を調査・発信することで、家庭環境問題に悩む人が「傷ついていることに気づく」ことを第一の目的とします。そして、社会が「立ち止まって考える」きっかけをつくることを第二の目的とします。

## 調査項目

- (1)家庭環境による価値観の変化
- (2)家庭を自分の居場所と感じられていない若者の実態

## 調査対象

全国 15 歳以上 25 歳以下の男女

## スクリーニング

「家庭が今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた層を「居場所である」、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた層を「居場所でない」に分類します。

## 調査期間

令和5年10月7日～10月13日

## 調査方法

Web アンケート

## 調査対象の属性

	男性	女性	全体
10代	41	75	116
20代	105	179	284
全体	146	254	400

	男性	女性	全体
北海道	9	12	21
青森県	1	3	4
岩手県	0	1	1
宮城県	3	6	9
秋田県	0	0	0
山形県	4	3	7
福島県	1	2	3
茨城県	5	7	12
栃木県	1	2	3
群馬県	1	5	6
埼玉県	10	18	28
千葉県	4	16	20
東京都	22	23	45
神奈川県	13	21	34
新潟県	2	5	7
富山県	0	0	0
石川県	2	1	3
福井県	0	0	0
山梨県	0	4	4
長野県	1	3	4
岐阜県	2	10	12
静岡県	2	5	7
愛知県	8	14	22
三重県	1	2	3
滋賀県	2	3	5
京都府	8	7	15

大阪府	17	19	36
兵庫県	9	12	21
奈良県	1	3	4
和歌山県	1	1	2
鳥取県	0	2	2
島根県	1	1	2
岡山県	2	3	5
広島県	4	9	13
山口県	2	2	4
徳島県	0	1	1
香川県	0	1	1
愛媛県	0	2	2
高知県	2	1	3
福岡県	2	5	7
佐賀県	1	4	5
長崎県	0	4	4
熊本県	0	2	2
大分県	0	1	1
宮崎県	0	1	1
鹿児島県	1	2	3
沖縄県	1	5	6

## スクリーニング結果

	男性	女性	全体
居場所である（そう思う・どちらかといえばそう思う）	72	128	200
居場所でない（そう思わない・どちらかといえばそう思わない）	74	126	200

## (1) 家庭環境による価値観の変化

### <気分障害の経験について>

**【家庭が居場所でない若者は、心の病気を発症するリスクが高い】**

#### Q1 気分障害（うつ・躁うつ）の経験がありますか

「居場所でない」方が、「気分障害がある気がする。またはそのような時期があったような気がする。」と答える割合が9ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
医師から気分障害と診断された経験がある	8%	9%
診断された経験はないが、憂鬱な気持ちや気分の低下があり、気分障害がある気がする。またはそのような時期があったような気がする。	15%	24%
気分障害の経験はない	77%	68%

（考察）ポイントに差はあるものの、大きな差異は見られなかった。自分が気分障害であると自覚できていない可能性もあると考えられる。また、自覚はあっても病院に行けないケースもあると想定される。さらに詳しい実態について、今後調査をする必要がある。

### <結婚願望について>

**【家庭が居場所でない若者は、結婚に億劫になりやすい】**

#### Q2 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。

「居場所でない」方が、「一生結婚するつもりはない」と答える割合が8ポイント高い。また、「居場所でない」方が、「離婚または死別して現在は独身」と答える割合が21ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
--	--------	--------

いずれ結婚するつもり	77%	47%
一生結婚するつもりはない	15%	23%
現在は結婚している	6%	8%
離婚または死別して現在は独身	2%	23%

(考察) 離婚・死別の経験者が多いことから、早期の結婚・離婚のケースが多いことが見込まれる。さらに詳しい実態について、今後調査をする必要がある。

### <グレーな経験について>

#### 【家庭が居場所でない若者は、パパ活やママ活に足を踏み入れやすい】

Q3 次のうち、経験したことがあること全てに選択をしてください。

「居場所でない」方が、「パパ活やママ活」と答える割合が5ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
いじめの加害者になる	10%	8%
夜の街で遊ぶ	17%	10%
家出	6%	8%
パパ活やママ活	1%	6%
あてはまるものはない	75%	77%

(考察) 「いじめの加害者」「夜の街で遊ぶ」は「居場所である」方のポイントが高かった。また、家出に関しては大きな差異は見られなかった。そこまでのことをする気力がないのか、そういった行為は固く禁じられているのか、今後調査をする必要がある。

### <社会貢献について>

#### 【家庭が居場所でない若者は、社会貢献の経験が少ない】

Q4 次のうち、経験したことがあること全てに選択をしてください

全ての項目で「居場所である」方のポイントが高い。

	居場所である	居場所でない
自主的に寄付をしたことがある(赤い羽根募金やコンビニの募金箱など)	42%	23%

学校の授業や課題以外でボランティアをしたことがある (ゴミ拾いや地域のイベントの手伝いなど)	37%	19%
悩んでいる友達がいた時に話を聞いたり励ましたりしたことがある	52%	28%
街中、駅などで困っている人を見かけて、助けたことがある	32%	17%
福祉の仕事に興味がある	13%	8%
あてはまるものはない	25%	52%

(考察) 本団体のスタッフたちの背景から、これらの項目のポイントが「居場所でない」方が高くなる見込みだったが、予想に反した結果となった。そこまでのことをする気力がないのか、そういった選択肢を知らないのか、今後調査をする必要がある。

### <家族の生活様式について>

Q5 あなたの家の生活様式にあてはまるものを選択してください。

#### 【両親ともに働いていない家庭で、子どもの居場所がなくなっている】

「居場所でない」方が、「両親ともに働いていない」と答える割合が 11 ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
共働き	63%	45%
母が専業主婦、父が働いている	21%	16%
父が専業主夫、母が働いている	2%	3%
シングルマザー	9%	9%
シングルファザー	1%	4%
両親はいない	2%	8%
両親ともに働いていない	5%	16%
その他	0%	1%

(考察) 「居場所でない」方の「両親ともに働いていない」の割合が高くなったことから、家庭が居場所だと感じない理由には、家族の生活様式も関係すると考えられる。相関について今後調査をする必要がある。

### <兄弟構成について>

#### 【きょうだいがいない家庭で、子どもの居場所がなくなっている】

Q6 次のうち、あなたにあてはまるものを教えてください

「居場所でない」方が、「きょうだいはいない」と答える割合が17ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
長男・長女	47%	31%
中間子	12%	9%
末っ子	23%	24%
きょうだいはいない	19%	36%

(考察)「居場所でない」の「きょうだいはいない」方の割合が高くなったことから、家庭が居場所だと感じない理由には、兄弟構成も関係すると考えられる。また、Q5の結果と合わせて考えると、家庭や社会から孤立している状況下の若者が「家庭を居場所でない」と感じる傾向が高いことが見込まれる。それぞれの相関について今後調査をする必要がある。

#### <親ガチャについて>

#### 【親ガチャに失敗したと答える若者は14%以上】

#### Q7「自分は親ガチャに失敗した」と思いますか。

「居場所でない」方が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合の合計が16ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
そう思う	4%	12%
どちらかといえばそう思う	10%	18%
どちらかといえばそう思わない	20%	20%
そう思わない	56%	22%
言葉の意味がわからない	12%	30%

(考察)「居場所である」方でも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計が14%あることから、家庭を居場所だと思っていても親ガチャには失敗したと思っている層がいることがわかる。一方、「居場所でない」方でも「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答える割合が42%であることから、家庭を居場所だと思っていなくても親ガチャには失敗したと思っていない層がいることがわかる。

#### <毒親について>

## 【自分の親が毒親だと思う若者は14%以上】

Q8 自分の親は「毒親」だと思いますか。

「居場所でない」方が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える割合の合計が10ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
そう思う	4%	10%
どちらかといえばそう思う	10%	14%
どちらかといえばそう思わない	13%	20%
そう思わない	63%	32%
言葉の意味がわからない	11%	26%

（考察）「居場所である」方でも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計が14%あることから、家庭を居場所だと思っても自分の親を毒親だと思っている層がいることがわかる。一方、「居場所でない」方でも「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答える割合が52%であることから、家庭を居場所だと思っていなくても自分の親を毒親だと思っていない層がいることがわかる。

<人への信用について>

## 【家庭が居場所でない若者は、人を信用しにくくなる】

Q9 あなたは一般的に人を信用できますか

「居場所でない」方が、「どちらかといえば信用できない」「信用できない」と答える割合の合計が37ポイント高い。

	居場所である	居場所でない
信用できる	13%	5%
どちらかといえば信用できる	50%	23%
どちらかといえば信用できない	24%	36%
信用できない	13%	37%

（考察）「居場所でない」方の「どちらかといえば信用できない」「信用できない」と答える割合が高くなったことから、人自体に対する不信感が高まっていると考えられる。

## (2)家庭を自分の居場所と感じられていない若者の実態

<家庭の悩みを隠した嘘の経験について>

### 【家庭が居場所でない若者は、普通の子に見えるように嘘をつく】

Q10【家庭が居場所でない人対象】家庭環境の悩みを周りの人に知られたくないために、周囲の人に嘘をついたり隠したことはありますか？

「はい」と答える人が50%、「いいえ」と答える人が51%と大きな差異は見られなかった。

はい	49%
いいえ	51%

(考察) 値は拮抗したが、嘘をついた人が半数を超えるということは、既存の対人福祉に繋がらない人が一定数いることも見込まれる。具体的な嘘をつくシーンや動機などについて、今度調査をする必要がある。

<家庭環境問題の連鎖について>

## 【自分のような家庭環境を繰り返さないようにしたい若者は多い】

Q11【家庭が居場所でない人対象】もし自分が子育てをしたとき、あるいは現在子育てをしているとき「自分が子どものころ経験したような家庭環境を繰り返さないようにしたい」と思いますか「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人の合計が55%。

そう思う	35%
どちらかといえばそう思う	20%
どちらかといえばそう思わない	19%
そう思わない	27%
全体	100%

(考察) 値は拮抗したが、嘘をついた人が半数を超えるということは、既存の対人福祉に繋がらない人が一定数いることも見込まれる。具体的な嘘をつくシーンや動機などについて、今度調査をする必要がある。

### <家庭環境問題について>

## 【人格否定・理想の押し付け・過保護が子どもを悩ませる】

Q12【家庭が居場所でない人対象】あなたの親がしていると思うこと全てに選択をしてください。「自己肯定感をなくす人格否定」が20%、「親の理想を子どもに押し付ける」が20%、「生きづらさを感じる過保護」が16%と割合が高かった。一方、「あてはまるものはない」が49%と最も高くなった。

自己肯定感をなくす人格否定（例：自分の性格や行動について否定される。）	20%
生きづらさを感じる過保護（例：なんでも親のコントロール下にある。行動に自由がない。）	16%
親の理想を子どもに押し付ける（例：過度に勉強を強制される。振る舞いを強制される。）	20%

子ども間差別（例：兄弟や姉妹の間で、自分だけ対応が違うように感じる。）	14%
子どもに依存する（例：自分が親を守らなきゃいけないと思う。親の世話をする。）	10%
激しい気分の浮き沈み（例：親が自分に構ってもらうために過度なアピールをする。激しく怒る。）	10%
お金による支配（例：親に自分のお金を取られる。親が望まないものにはお金を出さないとおどされる。）	8%
理不尽な無視（例：話を聞いてもらえない。存在を無視される。）	7%
過度な監視・管理（例：交友関係に口出しをされる。GPSで監視される。）	7%
暴力・ものを投げる（例：殴る。たたく。ものを投げられる。体を傷つけられる。）	7%
人前で馬鹿にする（例：友達や知り合いの前で容姿や学力などを馬鹿にされる。）	6%
子どもを異性として好む・嫌う（例：親に異性として好まれる。親に異性として嫉妬される。）	4%
周囲の意見を聞かない（例：学校の先生や病院の先生のアドバイスや意見を無視する。）	6%
生活に必要なことをしない（例：親が家に帰ってこないことがある。病院に連れて行ってもらえない。）	5%
押し付ける宗教観（自分は望んでいないのに、宗教を強制される。生活するお金が宗教のために使われてしまっている。）	5%
その他	3%
あてはまるものはない	49%

（考察）今回の調査では選択肢を設けたが、「あてはまるものはない」と答えた人が、「なぜ家庭を居場所だと感じないのか」をさらに調査する必要がある。選択肢の内容ほど言語化されていなかったり、自分はそのほどこでもないのに心に蓋をしていたりする可能性はあるが、今回「あてはまるものはない」が49%と最も高くなってしまった点は、調査を設計流うえで反省すべき点である。

## <救いについて>

### 【推しやSNSが救いになる】

#### Q13【家庭が居場所でない人対象】家で嫌なことがあったときの「救い」を教えてください

「音楽」が36%、「好きな推し」が31%、「SNS」「睡眠」が24%と割合が高かった。

音楽	36%
ゲーム	17%
漫画	10%

読書	8%
勉強	4%
睡眠	24%
食事	14%
お菓子	18%
運動やスポーツ	18%
友達	17%
先輩	4%
後輩	4%
先生	4%
近所の人	3%
好きな推し	31%
SNS	24%
その他	5%

(考察) 「睡眠」「音楽」など昔からある娯楽方法がある一方、「好きな推し」「SNS」は近年若者の間で流行っているコンテンツであり、そういったコンテンツによる処方も検討していく必要がある。